

長崎医療センター

基本理念

＜高い水準の知識と技術を培い患者さん一人一人の人格を尊重し高度医療の提供を目指す＞

当院は長崎県中部の大村市にあり、中核拠点病院として地元の方々と医療機関と連携しつつ、地域のニーズに応えています。その中でも救急医療とがん診療に力をいれており、救急医療に関しては、1978年に県下初の救命救急センター（2018年に高度救命救急センターに指定）を設置し、2006年からはドクターヘリの基地病院としての対応を行っています。がん診療に関しては、2014年に「県央がんセンター」を開設し、地域がん診療連携拠点病院としての体制を強化しています。

薬剤部では病院理念に基づき、入院患者に対して入院時持参薬の確認、服薬計画の提案、医薬品の使用状況の把握、副作用のモニタリング等の病棟薬剤業務および薬剤管理指導業務を実施し、医師、看護師等の他職種と連携した医薬品安全使用に取り組んでいます。外来患者に対しては外来化学療法センター、薬剤師外来、入院予約支援センターにおいて専任薬剤師が外来患者への薬剤業務（レジメンの説明、副作用マネジメント、経口抗がん剤服薬支援、術前中止薬のチェックなど）を実施して最適で安心できる薬物療法が届けられるように努めています。また、教育・研修事業として薬学部学生実習の受入れ、保険薬局薬剤師の研修受入れ、看護学生への講義なども実施しています。さらに勤務薬剤師の臨床力向上のため、がん、緩和ケア、感染制御、NST、HIV、妊婦授乳婦、精神、糖尿病、心不全など各領域においての資格取得を視野に日々の業務を行っています。

【施設概要】 2023年7月現在

1. 所在地 〒856-8562 長崎県大村市久原2丁目1001-1
2. 特徴 都道府県がん診療連携拠点病院・地域医療支援病院・へき地医療支援病院・災害拠点病院・エイズ拠点病院・てんかん診療拠点機関
3. 診療科 36診療科
【外科系】外科・呼吸器外科・心臓血管外科・乳腺外科・消化器外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・形成外科・眼科・耳鼻咽喉科・小児外科・産婦人科婦人科・内分泌外科
【内科系】内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・腎臓内科・神経内科・内分泌代謝内科・血液内科・皮膚科・リウマチ科・感染症内科・小児科・精神科・肝臓内科・緩和ケア内科・腫瘍内科
【外科系・内科系以外】リハビリテーション科・放射線科・麻酔科(手術部)・病理診断科・臨床検査科・救急科
病床数 643床／内訳 610床(一般) 33床(精神)；14病棟
4. 薬剤師数 定員29名(治験3名；主任2名、薬剤師1名)
部長1名、副部長2名、主任10名(治験2名)、薬剤師16名(治験1名)
業務技術員11名
5. 主な業務(令和4年度実績)
(ア)調剤 入院140135枚/年、外来院内8468枚/年(院外処方率90.2%)
(イ)注射 入院163560枚/年、外来26159枚/年
(ウ)薬剤管理指導件数 5332件/年(444.3件/月)
(エ)無菌製剤処理料 I；8838件/年(うち閉鎖式使用481件/年)、II；948件/年
(オ)外来腫瘍化学療法診療料 4927件/年
(カ)病棟薬剤業務実施加算 I；27977件/年(2331件/月)、II；3344件/年(279件/月)

- (キ)病棟薬剤業務 実施（実施病棟数 1：13 病棟、2：1 病棟）
- (ク)チーム活動 ICT、AST、NST、緩和、RST、骨粗鬆症リエゾンチーム
6. 特徴的な業務 薬剤師外来（がん患者指導料ハ算定）、外来化学療法連携充実加算、持参薬チェックセンター業務、入院支援センター業務（術前中止薬確認）、NICU での TPN 調製
7. 令和 5 年度の取り組み 薬剤業務の見える化（活動事例収集および報告）、PBPM の取り組み推進、手術室関連加算取得（周術期薬剤管理加算、術後疼痛管理チーム加算）
8. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○
自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○
水剤監査システム	×
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	○
その他(自由記載)	
軟膏練合機	○
麻薬管理システム	○
医薬品マスター元管理システム	○
抗がん薬調製手順解析システム	○
調剤進捗管理システム	○

《病院目標》

地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得るために、次の活動を誠実にを行う

1. 医療の質の向上－高度かつ専門的急性期医療の推進
2. ワークライフバランスの実現－働き方改革推進
3. 感染症に強い病院
5. 病院の成長と個人の成長

《薬剤部の理念と目標》

理念：信頼される薬剤部になる

- 目標：1. 安全で良質な医療の提供
2. 安定した病院経営のサポート
3. 教育・研修・情報発信

目標のための方法：

1. 対人業務（入院・外来）の充実・強化
2. 薬剤業務のアウトカム充実・強化
3. タスクシフト/シェアの推進
4. チーム医療の推進